

避難所の運営

① 推進団体のリーダー
② 自治会の会長や役員、防災役員

部屋割り

地区 → 世代で分ける
(リーダーを作る) 乳幼児、妊産婦 → 優先 (793の部屋など)

医療チーム → 医師、看護師、ヘルパー、保健士

食料チーム → 調達と配食

自分たちができること

- 炊きだし (男の料理教室)
- 子どものケア (おおきななぶ)
- 高齢者のケア (フラワアレンジメントの会)
- 心のケア (ハート to ハンドメイドの会)
- 障がい者のケア (ほめたいね♡)

男女、国籍関係なく、みんなが楽しく暮らせるようにケアする。

復興に向けて

駒水 (おおきななぶ)
竹田 (男の料理教室)
長森 (フラワアレンジメントの会)
米田 (ほめたいね♡)
小川 (ハート to ハンドメイドの会)

避難所の運営

リーダー決め
男性1人、女性1人 → 呼びかけ (事前に決めておく)
候補 推進団体の中で毎年決めおく

遊フォークラブ: 男性が多いので、人助け、力仕事 (記録?)
子ども支援サークル: 子育て → 安心 → 復興につながる声掛け
お母さん支援 → 場所の提供
カトリック: 知恵を出し合う → 相談にのる

情報共有の仕方

ピラミッド型 → topの連絡先
掲示板の管理者、事務局の設置 → 皆に伝える

復興に向けて

部屋割り
安全安心な場所 → 乳幼児、妊産婦、障がい者



2014. 5. 24 推進団体交流会「災害と男女共同参画」ワークショップ

避難所の運営

行政

男性リーダー
女性リーダー

職業(資格)の把握

- 力仕事
- 情報収集
- 治安維持
- そうさく
- 乳幼児
- 妊産婦
- 障がい者のケア
- 高齢者
- 外国人

プライバシースペースの確保

- 少しの時間でも入れられる空間
- 乳幼児のいる部屋
- 要介護者のための個室

自分たちができること

仲間作り
ストレッチ、ストレス解消

人のネットワークを使って、全国に呼びかけ子
思春期の心のケア

子供の遊ぶ場の提供、ママの支え
たき出し、洗たく

復興に向けて

男女どちらの意見もとりにくかった
社会の実現

避難所の運営

① 地域で集まる
② 家族単位に来る

④ 連絡のしるしを作る 整理紙 (番号)

自分たちができること

① 読み聞かせをしてあげる
② ストレッチ、体操で身体を動かす
③ 現場の写真と... 後々のために記録
④ 絵手紙で元気づける

復興に向けて

① 皆さんで、元気になれるようなイベントを考えてみる
② 心のケアを...

女性 乳幼児
男性 妊産婦
高齢者 障がい者
外国人

子供スペース

避難所の運営

町内会長
自治会長
女性会長 } 話し合
11-9-を定める

仕切り — 家族ごと (タンホール) (外国人)
更衣室 (女性用) 言葉のやり取りが付き添い
物品の分け (女性専用)
障がい者 高齢者 トイレ近く
乳幼児 介護の状況におよぶ 別部屋

自分たちができること

- 荷物を運ぶ
- 掃除
- 介護の手伝い
- 食事をつくる — 西食
- ゴミ集め
- 乳幼児の預かり
- お話し絵本、うた
- 写真や絵で提示
- 水洗トイレの水こみ
- 避難者リストの作成

復興に向けて

ネットを繋がる
11-9-が要望や意見をまとめる
市や会議に伝える
話しあふ場
お茶を飲んだりおしゃべりする場

避難所の運営

リーダーは誰か?
地域の自治会の老人会等役員がなす。
ところが日常は女性が多い
又内容も女性が周知している。

女性はリーダーにならないうの?
責任が重い。原因は女性に
女性に任せている

日常暮しの中で女性意識が強い

自分たちができること

セルフメンテ体操
こけしお守り(おまじない)
懐かしい(お守り用紙) → つつ会
ストレッチ体操 3B体操

避難所の運営

- リーダー → お世話係 には 男性 3名 あり
- 部屋割りの中に 運営委員 等々の 場所
- 「 毎 30分 ほど 交代 する 場所」
- ペットの居場所

自分たちができること

- パソコンで 名簿
- トイレ 管理
- ペットの 居場所
- おしゃべり会の運営 (おしゃべり会 がある)
- 手袋で 心 暖める お手伝い

復興に向けて

- 若く 元気な人は 働かす
- 高齢者・元気がない人は 介助
- 話し相手に なす。散歩相手
- 体操 2 体操 を 動かす
- 歌とダンスで みんなを 元気 づける



□ワークショップを通して感じたこと、考えたこと
(アンケートより抜粋)

- 自分では思いつかない目線のお話が聞けて、勉強になった
- 改めて震災時の困難な状況を思い描く機会となった
- ワークを通して一緒に考えることで、他団体の方との交流が出来た
- 震災から時間がたち、災害に対する恐怖心や心構えが薄れていることを実感した
- 一人で考えるのは難しいけれど、何人かで考えてみるといろいろな意見がでるものですね
- いろいろな年代の方とシェアできたことがとても勉強になった。時間が全体的にきつかったように思う。説明が少しわかりづらいところがあった
- みんなの意見を聞いて実行していくことが、リーダーとして大切なことだと思った
- 震災が起こったとき、子どものことだけでいっぱいになりそうだけど、女性として逃げることなく、自分の役割を考えて責任を果たしたいと思った
- さまざまな活動を通して、顔見知りになっていくことで、災害時にも活かすことができると思う
- 実際にリーダーを決め、避難所の運営をする時に、顔の見える関係性であるか、お互いを知ることが大事になる
- 防災について女性が積極的に関わり、声を上げていくべきだと思うので、気づいたことを云える場があればと思うし、継続して考える機会があればいいと思う
- 災害時にみんなが尊重される生活に戻れるような避難所の運営をまとめるのはとても難しいと再認識した。自分とは立場や状況が違う人を理解することの大切さ、いろんな視点をもつ大切さを考えさせられた
- みんなが自分の意見が正しいと思って発言した時に、円滑に話を進めるスキルをもった人が必要だと感じた

避難所の運営

議長がリーダーを定める
収容部屋割り、乳幼児と家族、高齢者、障害者
避難の名簿と記録する人を定める

自分たちができること

- 避難物資の受取りと分配……
- 簡易トイレと準備
- 気分で体のストレスを解消する
- 炊きだし
- 高齢者 障害者の心のケア (つつ会)

復興に向けて

推進団体に全力で協力します (加藤 男料理教室)
加藤 男 大塚 大崎 佐藤

□震災からの復興に向けて、団体として、また、個人としてできること (アンケートより抜粋)

- 乳幼児の預かりや子どもにお話しや絵本、歌などを届ける活動
- おしゃべり会をしてみんな元気を取りもどすこと
- フラワーアレンジメントを通して子育てママ同士の交流を深める活動をしているので、避難しているママを誘って仲間づくりをしていきたい
- 子育て中なので子どものケアを考えたい。地区のコミュニティを大事にしていきたい
- 趣味でやってきたことで、人に喜んでもらうことができらううれしい
- 学んだことを活かして障がい者のケアができればいいな
- 団体のブログやフェイスブックを通し全国に向けて、援助のお願いや被災地の状況報告ができる
- 料理教室で学んだことを活かして炊き出しのお手伝いをする
- 子どもさん、お母さん、お父さんの支えになるよう、協力をしたい
- 話し相手や散歩、体操など団体で取り組むことがあると思う
- 小さな子どもさんのいるお母さんたちとからだを動かして、気持ちをスッキリさせるお手伝いができるかも
- 手作りを通して心の復興のお手伝いができると思った

